

岐阜大学医学部附属病院 広報誌

うぶね

ubune

Take free
62

2026年6月発行



特集 新病院長インタビュー

岐大病院の将来ビジョン

「対話」が創る

信頼と安心の病院へ

- クローズアップ!
- 管理栄養士のけんこう食卓
- 自宅でカンタン!健康体操
- Q&Aコラム ○○って何?

新病院長インタビュー

岐大病院の将来ビジョン

「対話」が創る 信頼と安心の病院へ

2026年4月、岐阜大学医学部附属病院の新病院長に清水雅仁先生が就任。

消化器内科学の教授として最前線で診療にあたり、

副病院長として病院運営や医療安全にも深く携わってきた清水病院長。

患者さんや地域社会との「対話」を何よりも大切にする新しいリーダーが、2030年に向けた病院のビジョンを語ります。



岐阜大学医学部附属病院 病院長

清水 雅仁 MASAHITO SHIMIZU

岐阜大学大学院医学系研究科消化器内科学 教授
岐阜大学医学部附属病院 第一内科長

1995年 岐阜大学医学部医学科卒業
2001年 岐阜大学医学部大学院医学系研究科修了
2002年 米国Columbia University Medical Center, Postdoctoral Fellow
2006年 岐阜大学医学部附属病院第一内科助教
2013年 岐阜大学医学部附属病院第一内科講師
2015年 岐阜大学医学系研究科消化器病態学教授(現:消化器内科学)
2016年 岐阜大学医学部附属病院副病院長
2018年 岐阜大学医学部附属病院病院長補佐
2020年 岐阜大学医学部附属病院副病院長
2026年 東海国立大学機構副理事・岐阜大学医学部附属病院長

岐阜県全体の医療を支える 「最後の砦」としての責任

岐阜大学医学部附属病院は、岐阜県内唯一の大学病院であり、唯一の特定機能病院という極めて重い責任を担っています。この「特定機能病院」を掲げるためには、十分な数の医師や看護師の配置はもちろん、最新医療機器の整備といったハード・ソフト両面での充実が不可欠です。他の医療機関では対応が難しい高難度治療を要する症例や、多くの合併症を抱えた患者さんなど、極めて困難な病態に対しても、責任ある治療を完遂することが求められている病院であることを自覚するとともに、誇りを持って医療に取り組んでいます。

これまでも当院は、医師、看護師、メディカルスタッフ、そして事務職員を含む約2,000人の職員が協力し、互いに支え合いながらチーム医療を実践し、より良い病院を目指し続けてきました。長年築き上げてきた素晴らしい風土と文化を大切に継承しながら、どのような難症例に対してもチーム一丸となって、常に最善の治療を提供していくことが求められます。

多職種連携による総合力で 専門機能を強化

各診療科の専門性をさらに磨き上げることはもちろんですが、診療科という枠組みを超えて多職種が密接に連携する「センター化」についても、今後一層推進していく考えです。これまでも「岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センター」や「がんセンター」、「ロボット支援手術センター」のほか、新たに設立された「肥満症治療センター」が順次稼働しています。

個々の診療科だけでは解決が難しい課題に対しても、当院が有する多様な専門性と機能を集結することで、患者さん一人ひとりを支える体制を整えています。多職種が連携して生み出すチーム医療の総合力こそが、当院の真の底力であると確信しています。



救急医療に関しては、ホットライン体制のさらなる充実を図るとともに、救急車の受け入れ態勢や、ICU(集中治療室)、ACCC(高次救命治療センター)の病床数といったハード面についても、現在のニーズに合わせて着実に整備・見直しを進めていきます。

さらに、次世代医療の先頭に立つ取り組みとして、私が今注目しているのが「セラノスティクス」です。これは治療(Therapy)と診断(Diagnostics)を融合させた新たな医療概念で、がん治療の領域で現在大きな潮流を生み出しています。例えば前立腺がんの治療において、がんにしか現れない抗原をターゲットにし、放射性物質を用いてピンポイントで攻撃する核医学治療(PSMA診療)は、2026年1月に県内初の実施施設として運用が始まりました。これまで培ってきたさまざまながんに対する治療実績に加え、さらに高度ながん医療をいち早く導入し、患者さんに届けていくことは、県内唯一の大学病院に課せられた使命でもあります。最先端医療を提供するためには、最新の機器や設備だけでなく、高度な専門性を持つメディカルスタッフの存在と、複数の診療科の垣根を越えた連携が欠かせません。そして、常に学び続け、新しいことに挑戦し続けるその情熱こそが、未来の医療を切り拓く原動力になっていくのです。

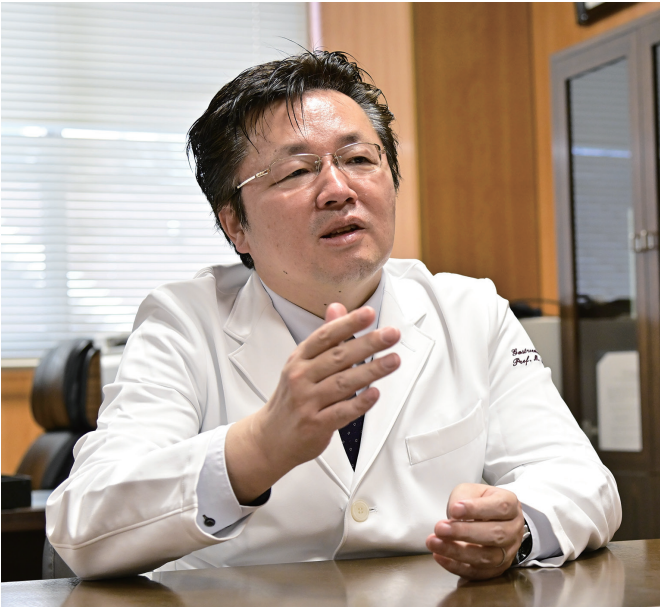
メディカルDX推進と スマートホスピタル構想

広大な岐阜県において、メディカルDXのさらなる推進も、引き続き急務の一つだと位置付けています。AIやICTを積極的に導入し、個人の診療情報やバイタルデータなどのPHR（パーソナル・ヘルス・レコード）を活用することで、診療サポート体制をより一層強化していきます。オンライン診療の充実はもちろんのこと、遠隔地の病院と大学病院をリアルタイムでつなぎ、専門医が即座にサポートできる遠隔ICU構想も進めています。2023年の電子カルテ更新を経て、今後はAIによる検査管理や教育支援ツールの開発などをさらに進め、時代に即した「スマートホスピタル」を目指していきます。

また、言うまでもなく教育・研究は、診療と並んで大学病院が果たすべき大きな使命であり、どちらが欠けても成り立ちません。岐阜県唯一の大学病院である当院は、優れた人材を育成することはもちろん、将来の標準治療そのものをここ岐阜から創り出していくという気概を持っています。若手の皆さんには、大学病院という恵まれた環境を存分に活用し、人として、そしてプロフェッショナルとして大きく飛躍してほしいと願っています。

柳戸地区をサイエンス& メディカルリサーチの発信地に

研究を推進し高度医療技術を開発するためには、当院が立地する岐阜市柳戸地区のポテンシャルを最大限に活かすことが重要です。このエリアには、医学部、工学部、応用生物科学部に加えて、岐阜薬科大学も隣接しており、「医・薬・獣・工・農」が緊密に連携できるという、全国的に見てもかなり稀有な環境が整っています。周辺との連携で可能性を広げながら、人のみならず動物の疾病に関する研究、あるいは人獣共通の薬や治療法の開発といった、岐阜ならではの新しい価値を創出するため、当院をその核に据えて進めていきたいと考えています。



大学病院としての大切な使命

Key word 1 教育・人材育成

地域医療の未来を担う情熱ある人材を

医療人の育成は、当院にとって大きな使命の一つです。医師に限らずすべてのメディカルスタッフや事務職の優れた人材を育成していくこと、そして、全職種のキャリア形成、研修や学会への参加、資格の取得、さらには国際交流などを今後も積極的に支援していきます。また、一度現場を離れた方であっても、いつでも大学病院で勤務、研修、あるいは大学院での研究ができる「リカレント教育」の仕組みを整備し、学び続けられる環境も整えていきます。私は、大学病院の最も重要な役割は「人を育てること」に尽きると考えています。



私たちが目指すのは、単にこの病院の中で完結する優秀なスタッフの育成だけではありません。ここで学び、成長した医師や医療従事者が、県内各地の医療機関でも広く大きく活躍していくことも大切です。岐阜県全体の医療レベルの向上、地域への貢献のためにも、情熱のある優秀な若手医師・メディカルスタッフのフレキシブルな雇用を進めてまいります。

Key word 2 研究

次世代の標準治療を生み出す拠点へ

研究の推進や高度医療技術の開発にも、県内唯一の医学研究機関として積極的に取り組み、将来の標準治療をここから創り出していくことを目指しています。そのための基盤として、症例登録システムやバイオバンクの構築を強力に進めており、多施設共同研究や治験の推進、外部資金の獲得などを通じて、研究を加速させる体制を整えています。高度な研究には「人」の力が欠かせません。治験コーディネーターやデータマネージャー、生物統計家、さらにはIT・DXの専門家など、多岐にわたるプロフェッショ



ナルを育成し、チーム一丸となって新たな医療の可能性を模索しています。また、現在私たちは東海国立大学機構の生命関連研究の拠点事業として、iGCORE（糖鎖）、COMIT（医・獣創薬）、Q-BRed（量子技術）といった、世界の最先端を行くプロジェクトにも参画しています。これらの成果を、日々の診療へと還元していきます。



岐阜大学医学部附属病院の 将来ビジョン

現在進行中のさまざまな項目に加えて、2030年に向け新たに注力していく項目の一部について、ピックアップして紹介します。



患者さんが一日も早く、 通常の生活に戻れる医療を

85歳以上の高齢者が急増し、現役世代が減少する「2040年問題」を見据え、厚生労働省は昨年、医療提供体制のグランドデザイン「地域医療構想2040」を提唱しました。これまでの医療は病気を治す「病院完結型」に重きを置いてきましたが、これからは役割分担を明確にし、患者さんが住み慣れた地域や日常生活にスムーズに戻れる「地域完結型」の体制構築が目標とされています。当院はこの要請に応えるため、救急・救命部門を抜本的に強化して高齢患者さんの急変や高難度手術に責任を持って対応するとともに、質の高い医療を維持するために症例や専門医を適切に集約していきます。また、地域の医療機関との協力関係を深めて急性期治療後のバトンタッチを円滑にし、重症患者さんをいつでも受け入れられる体制を維持します。

私たちの視線は常に、手術や治療の成功そのもの以上に「患者さんが元気に住み慣れた地域やご自宅へ戻ること」に向いています。治療を終えた後のリハビリはどう進めていくのか、地元のかかりつけの主治医とどう連携していくのか。入院前の段階から退院後の生活を見据え、早期退院や転院も含めた一連の流れを切れ目なくつなぐ「ペイシェント・フロー・マネジメント（PFM）」を徹底することで、患者さんやご家族、そして地域の皆さんが、安心して当院に身を任せられる体制を充実させていきます。

高度急性期を担う大学病院と、慢性期やリハビリテーションを担う地域医療機関との連携と機能分化を徹底し、患者さんが一日も早く「いつもの暮らし」に戻れる医療。2040年に向けて、テクノロジーと人の温かさが共鳴する新しい病院のあり方を創り上げていくことで、地域の皆さんに安心を届けてまいります。

すべての原点は「対話」に 安心を育む取り組み

私は、当院の理念である「あなたとの対話が創る 信頼と安心の病院」という言葉を、何よりも大切にしています。対話とは、単に言葉を交わすことだけではありません。患者さんやご家族はもちろんのこと、共に働く職員同士、さらには地域の方々、そして行政や医師会といった当院に関わるすべての方々と真摯に向き合い、膝を突き合わせて思いを共有することだと考えています。この本質的な「対話」を軸に、信頼を積み重ねていくことこそが、安全・安心な医療を提供する大きな基盤になると思っています。

患者さんやご家族、地域の皆さんとの「対話」について考えたとき、当院の象徴的な取り組みの一つに、私たちが力を入れている「総合患者サポートセンター」が挙げられます。入院が決定した患者さんやそのご家族に対して、看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種がチームで連携し、入院前の準備から、入院中の治療やケア、そして退院後の生活支援までを、シームレスにサポートしています。

私は常々、医療は入院してから始まるものではないと伝え続けてきました。手術や大きな治療を控えた患者さんにとって、その不安は外来を受診されたその時から始まっています。だからこそ、入院する前の外来の段階から、医師や看護師だけでなく多くの専門職が介入してしっかりとリスクを評価し、入院前から安心を保証する仕組みを構築したいと考えています。



人と人とのゆるぎない信頼をつなぐ 岐阜大学医学部附属病院へ

個人的な話になりますが、私は学生時代にラグビーに打ち込んでいました。世界ラグビー協会がラグビー憲章で定めた「コアバリュー」には、「品位、情熱、結束、規律、尊重」という5つの言葉が刻まれています。これらは医療の世界においても、働くスタッフが身につけるべき極めて大切な資質であり、私の大好きな言葉です。

まず「品位」ですが、医療人には相応の人格を備えて礼儀正しく振る舞うこと、品格が求められます。そして、プロフェッショナルとして、患者さんのため、病院のために何ができるかを絶えず追求する「情熱」を持たなければなりません。さらに、医療は決して一人では成し得ないものですから、チームワークを重んじる「結束」は欠かせません。また、命を預かる現場においてルールを守る「規律」は、医療安全の根幹を支える重要なものです。最後に、患者さんはもちろん、共に働く同僚や多職種のスタッフを敬う「尊重」の気持ちがなければ、医療機関は成り立ちません。

こうした精神が自然と組織に浸透し、すべての医療従事者が高い志を持って行動する文化を醸成すること。それこそが、患者さんや地域社会から真に「信頼される病院」を作り上げることにつながるのだと信じています。患者さんから、地域から、そして共に働く職員の間でも、常に信頼を基盤とした関係を築いていくことが、私たちのすべての活動の原点です。

私は、岐阜大学医学部附属病院を、患者さんが治療を終え、地域や自宅へ戻られる際に、「この病院を受診して本当によかった」と心から思っていただけのような場所にしたいと切に願っています。それと同時に、職員にとっても「ここで働きたい」、「ここで働けてよかった」と誇りを持てる場所でありたい。そのためには、患者さんからの信頼、そして職員同士の信頼、地域の方々からの信頼が欠かせません。そのすべてがそろってはじめて、私たちは「最後の砦」としての使命を果たし、持続的に発展していくことができるのだと信じています。

クローズアップ!

臨床検査技師

vol.8

岐阜大学医学部附属病院で働くさまざまなスタッフの仕事内容をご紹介します。



岐阜大学医学部附属病院
検査部 臨床検査技師
いとう あいり
伊藤 亜衣梨さん

心臓の声に。患者さんの思いに。
確かなまなざしで、寄り添い続けたい。

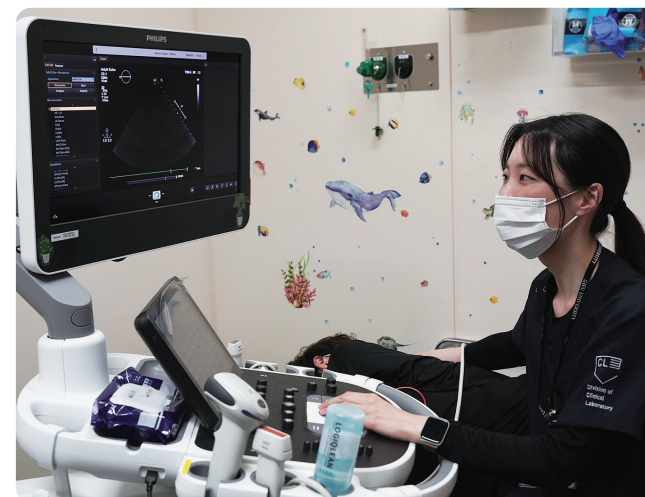
診断の根拠を支える検査のプロフェッショナル

臨床検査技師は、患者さんの体の状態を数値や画像などの客観的なデータとして示し、病気の診断や治療方針の決定を支える医療専門職です。活躍の場は病院のほか、検診センター、検査センター、企業、研究施設など多岐にわたります。

私は高校生の頃、漠然と「不安を抱えている誰かのために働きたい」と考え、医療の世界を志しました。自ら治療を行う立場ではありませんが、検査を通じて患者さんの役に立てること、そして医療の根拠を支える重要な役割であることに魅力を感じ、臨床検査技師の道を選びました。当院を志望したのは、患者さんと直接関わる機会を大切にしながら、大学病院ならではの多様

な症例に触れ、将来的には研究活動にも挑戦したいという思いがあったからです。

現在は検査部の循環生理検査部門に所属し、主に心電図や心臓超音波（心エコー）検査を担当しています。心エコーは、リアルタイムで心臓の動きを観察できる極めて重要な検査ですが、実は術者の知識や技術によって見え方が変わる、非常に奥深い世界でもあります。短時間で質の高い検査が求められる現場で、「見落としは許されない」というプレッシャーは常にありますが、自分の導き出した所見が治療の決め手となり、患者さんの回復につながることに、大きなやりがいを感じています。



▲技術と知識が問われる心エコー。患者さんの負担を最小限に、かつ迅速で正確な検査を追究。

学び、究め続けることで 患者さんの力になりたい

医療のガイドラインは絶えず更新され、技術の進歩に終わりはありません。現在は心臓分野の探求に注力しており、日々の臨床で感じた疑問を研究につなげたいと考えています。2025年9月には、自身の研究演題が米国心エコー図学会（ASE2025）に採択され、発表を行う機会をいただきました。テネシー州ナッシュビルの大きな会場で、世界の第一線で活躍する専門家の方々に囲まれての発表は、私にとって大きな財産となりました。「患者さんを救いたい」という情熱は世界共通なのだと思ひ、より一層、検査の精度を追究したいという思いを強くしました。こうした貴重な挑戦ができるのは、背中を押してくれる大学病院という恵まれた環境、そして温かい先輩方や先生方の支えがあってこそです。

待ち時間軽減の実現に向けて チームで考えた仕組みづくり

技術の研鑽と同時に、検査の待ち時間の改善にもチームで取り組みました。以前は心エコーの予約枠が常に埋まっており、不安を抱える患者さんを長くお待たせしたり、医師との調整に多くの時間を割いたり、非効率な運用が課題となっていました。そこでチームで知恵を出し合い、業務フローを徹底的に見直しました。

具体的には予約枠を従来の約2倍に拡大し、当日検



▲2025年9月に開催された米国心エコー図学会（ASE2025）での様子。キャリア3年目での採択は快挙。

査用の枠を新設。その結果、多くの患者さんを受け入れられるようになっただけでなく、電話対応に追われていた臨床検査技師がより検査に集中できる環境が整いました。以前よりも効率的に検査を提供できるようになり、患者さんの身体的・精神的な負担軽減にもつながっていると実感しています。

検査室を訪れる患者さんは、誰もが大きな不安を抱えています。検査中、患者さんから「ありがとう、安心したよ」という言葉をいただけることが、何よりの励みです。これからも、一人ひとりの心に寄り添いながら、いつかは心臓だけでなく全身を総合的に評価できる技師を目指し、認定資格の取得にも積極的に挑戦していきたいです。確かな検査、確かなデータで、患者さんの安心と健やかな毎日を支えていけるよう、私はこれからも学び、究め続けていきたいと思います。



▲岐阜大学医学部附属病院 検査部の皆さんと

管理栄養士の けんこう 食卓

岐阜大学医学部附属病院の管理栄養士が
おすすめする栄養レシピをご紹介します。

今回の食材

ピーマン

豊富なビタミンで
夏バテ対策

ピーマンは、鮮やかな緑色とほのかな苦みが特徴の夏野菜。免疫力アップが期待できるビタミンCが豊富で、繊維に沿って縦に切ること、栄養が流失しにくくなり、シャキシャキとした食感も楽しめます。ピーマンにはβ-カロテンやビタミンEも含まれており、油と一緒に調理することで吸収率が高まります。疲労回復効果のあるビタミンB1を多く含む豚肉と組み合わせたレシピは、夏バテ予防におすすめです。

旬の味わいを包んだ春巻きで、夏を乗り切る！

豚肉とシャキシャキピーマンの春巻き

管理栄養士
えだもと あやの
枝本 彩乃さん

材料(2人分)

豚ロース薄切り肉 …… 4枚
ピーマン …… 3個
スライスチーズ …… 2枚
春巻きの皮 …… 4枚
塩・こしょう …… 少々

「薄力粉 …… 小さじ1
水 …… 小さじ1
トマトケチャップ …… 適量
粒マスタード …… 適量
揚げ油 …… 適量

作り方

- ①ピーマンは縦半分に切ってヘタと種を取り除き、縦に細切りにする。スライスチーズは半分に切る。
- ②豚肉を広げて塩・こしょうを振り、上にカットしたスライスチーズ、ピーマンを順にのせて巻いていく。同じものを4個作る。
- ③春巻きの皮をひし形に置き、手前中央に②のをのせる。具にかぶせるように手前の角を折り、左右の角を内側に折る。上の角に向かってくると巻き、巻き終わりにAを混ぜたものを塗って留める。
- ④160℃に熱した油に③を入れ、途中で返ししながら3分ほど、きつね色になるまで揚げる。
- ⑤④を半分にカットして盛り付け、トマトケチャップや粒マスタードをお好みで添える。

栄養成分 (1人分)	たんぱく質	脂質	炭水化物	食塩相当量
	15.5g	27.4g	16.5g	0.8g

(ケチャップ、粒マスタードは含めず)

Recipe 2

ピーマンの 春雨和え



つるりと
爽やかに味わう、
夏にぴったりの
副菜。

レシピは
コチラから！

管理栄養士
かとう さきょう
加藤 左京さん



自宅で
カンタン！

健康 体操

今回のテーマ

腰痛ケアに！脊柱伸展体操

身体を後ろに反る運動です。椎間板ヘルニアを含む椎間板症状による腰痛の治療や姿勢不良の矯正、関節機能不全による慢性腰痛症に対する治療として行われる運動療法です。腰椎ヘルニアや慢性腰痛の方にもおすすめ。



10~20秒
程度

5~10セット
繰り返す

- ①肩の下に肘がくるように上体を起こして前を向き、腰をそらす。
- ②腰をそらした状態で深呼吸をしながら10~20秒程度保持する。
- ③10秒程度休憩する。

余裕がある場合は
肘を伸ばして上体を起こすと、
より身体を反ることができます



体がきつと感じたら、
保持する秒数を減らしましょう

POINT

足と腰に力が入らないようにリラックスをして行いましょう。無理せず、心地よい程度の負荷で行いましょう。

教えてくれたのは

やまだ ともき
山田 智貴さん
理学療法士

基本姿勢

うつ伏せになる。

※注意事項：急性期の腰椎ヘルニア、腰から足にかけて痺れ・痛みが出現する場合、ギックリ腰（急性腰痛）、器質的疾患を要する者（脊柱管狭窄症や脊椎すべり症、脊椎分離症など）には禁忌です。行わないでください。
※痛みや痺れが出現もしくは悪化することがあれば体操は中止し、医師や理学療法士に相談しましょう。

Q&A コラム 〇〇って何？



教えてくれたのは

かわぐち ゆりか
川口 友里加先生
耳鼻咽喉科
頭頸部外科

今回のギモンは…

睡眠時無呼吸症候群って何？

A 睡眠中に、何度も呼吸が停止すること。日中の眠気や倦怠感などの症状を引き起こす病気です。

睡眠時無呼吸症候群によって睡眠の質が低下すると、日中の眠気などを引き起こします。仕事や勉強の効率低下、居眠り運転事故、労働災害の原因になることが考えられます。慢性的な睡眠不足によるストレスや血液中の酸素の不足は、糖尿病や高血圧、不整脈の発症や悪化を招き、脳卒中や心臓血管疾患を発症する確率が健康な人と比べ高くなります。治療により改善することが多いため、いびきや無呼吸を指摘されたら、早めに専門医療機関へ相談しましょう。



通院サポートアプリのご案内

スマホで通院を便利に！

通院サポートアプリ「HOPE LifeMark-コンシェルジュ」のご案内です。



アプリ受付窓口

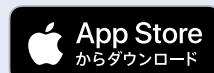
登録のご相談はこちらへ

場所：病院1階総合診療部 時間：平日8:30～17:00



HOPE LifeMark-
コンシェルジュ
FUJITSU LIMITED

▼iPhone



▼Android



STAFF募集

当院では現在、
下記スタッフを募集しております。

ドクタークラーク

(医療事務
作業補助者)

※医師の事務サポート



ナースアシスタント

(看護補助者)



その他職種も募集中！

詳しくはこちら！▶

岐阜大学病院HP 採用情報



THANKS FOR THE DONATION

ご寄附のお願い



岐阜大学医学部附属病院では、

教育・研究・医療の推進のため、寄附金を受け入れています。

皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お申し込み方法

「寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、経営管理課管理係までご提出ください。
お申し込みいただいた方に、振込依頼書をお送りしますので、全国の金融機関の窓口よりお振込みをお願い致します。

※振込手数料は当院が負担します



寄附金申込書
ダウンロード

お問
合せ

岐阜大学医学部附属病院 経営管理課管理係

☎ 058-230-6011

✉ hpkanni@t.gifu-u.ac.jp



読者アンケートにご協力をお願いします▶

よりよい誌面作成のため、ぜひ皆さまの声をお聞かせください。
アンケートは折込のハガキまたは右のQRコードからもご回答いただけます。



「うぶね」バックナンバーは病院ホームページで公開中です▶

<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/guide/ubune.html>

岐大病院 うぶね

